

宮崎県日南市から得られた九州東岸初記録のユメタチモドキ（タチウオ科）

栗原 巧^{1,2}・緒方悠輝也^{2,3}・村瀬敦宣^{2,4}

Author & Article Info

¹ 宮崎大学大学院農学研究科（宮崎市）

TK: gd18010@student.miyazaki-u.ac.jp (corresponding author)

² 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド（水産実験所）（延岡市）

³ 宮崎大学大学院農工学総合研究科（宮崎市）

⁴ 宮崎大学農学部海洋生物環境学科（宮崎市）

Received 22 August 2022
 Revised 29 August 2022
 Accepted 30 August 2022
 Published 30 August 2022
 DOI 10.34583/ichthy.23.0_32

Takumi Kurihara, Yukiya Ogata and Atsunobu Murase. 2022. First record of the Channel Scabbardfish, *Evoxymetopon taeniatum* (Scombroidei: Trichiuridae), from Miyazaki Prefecture, eastern Kyushu, southern Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 23: 32–37.

Abstract

A single specimen (766.0 mm standard length) of the Channel Scabbardfish, *Evoxymetopon taeniatum* Gill, 1863 (Trichiuridae), was collected from east of Ohshima Island, Nichinan City, Miyazaki Prefecture, southern Japan. This specimen represents the first record of the species from the prefecture and eastern Kyushu.

ユメタチモドキ属 *Evoxymetopon* Gill, 1863 は、二又した尾鰭があること、円盤状の腹鰭があること、臀鰭の第1棘は鱗形であること、頭部の両眼間隔は隆起縁を形成し、その輪郭は上方に張り出すように傾いた傾斜となること、眼は頭部背縁に接近せずに頭部側面の中ほどにあること、背鰭棘条部と軟条部の間には欠刻がないこと、背鰭条数の合計は93以下であることなどの特徴からタチウオ科の他の属と区別される (Gill, 1863; Nakamura and Parin, 1993; 中坊・土居内, 2013)。本属ではユメタチモドキ *E. taeniatum* Gill, 1863, ヒレナガユメタチ *E. poeyi* Günther, 1887, ヒレナガオオユメタチ *E. macrophthalmum* Chakraborty, Yoshino and Iwatsuki, 2006, および *E. moricheni* Fricke, Golani and Appelbaum-Golani, 2014 の4種が有効種とされており (Gill, 1863; Chakraborty et al., 2006; Fricke et al., 2014), そのうち日本からは *E. moricheni* を除く3種が知られるが (Chakraborty et al., 2006; 中坊・土居内, 2013; Fricke et al.,

2014), 宮崎県沿岸からはいずれの種も報告がなかった。

2022年3月17日、宮崎県日南市大島東方沖にて、1個体のユメタチモドキに同定されるタチウオ科魚類が釣獲された。同標本は本種及び本属魚類の標本に基づく宮崎県沿岸および東九州沿岸からの初記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

ユメタチモドキの学名は中坊・土居内 (2013) に従った。標本の計数・計測の方法は崎山ほか (2011) に従い、計測にはノギスとメジャーを用いて0.1 mm単位まで行った。また、崎山ほか (2011) と同様に、各鰭条数は棘条と軟条の区別をせずに総数で表記し、臀鰭条数の計測は、体内に埋没せず、目視できる鰭条のみを対象とした。標準体長 (standard length) はSLと表記し、計数項目と体各部のSLに対する割合をTable 1に表記した。本研究で調査した標本は神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類標本資料 (KPM-NI), 標本の生鮮写真は同館の魚類写真資料 (KPM-NR) として登録され、保管されている。なお、同館の資料番号は、博物館のデータベース上では0を含めた7桁の数字で表記される (例えば、KPM-NI 0071943) が、本研究では有効数字で表記した。

Evoxymetopon taeniatum Gill, 1863

ユメタチモドキ

(Figs. 1, 2; Table 1)

調査標本 KPM-NI 71943, 766.0 mm SL, 宮崎県日南市大島東方沖 (31°31'10.8"N, 131°33'30.1"E), 2022年3月17日, 水深150 m, ルアー釣り (メタルジグ), Fishing boat グレアリー, 村上宏幸。

画像資料 KPM-NR 222719A–N (アルファベットは枝番号), KPM-NI 71943 の生鮮写真。

記載 調査標本の計数・計測値をTable 1に示した。体は前後方向に帯状に伸長し、著しく側扁し、二又する尾鰭がある。体高は前方から後方に向かうにつれ徐々に低くな

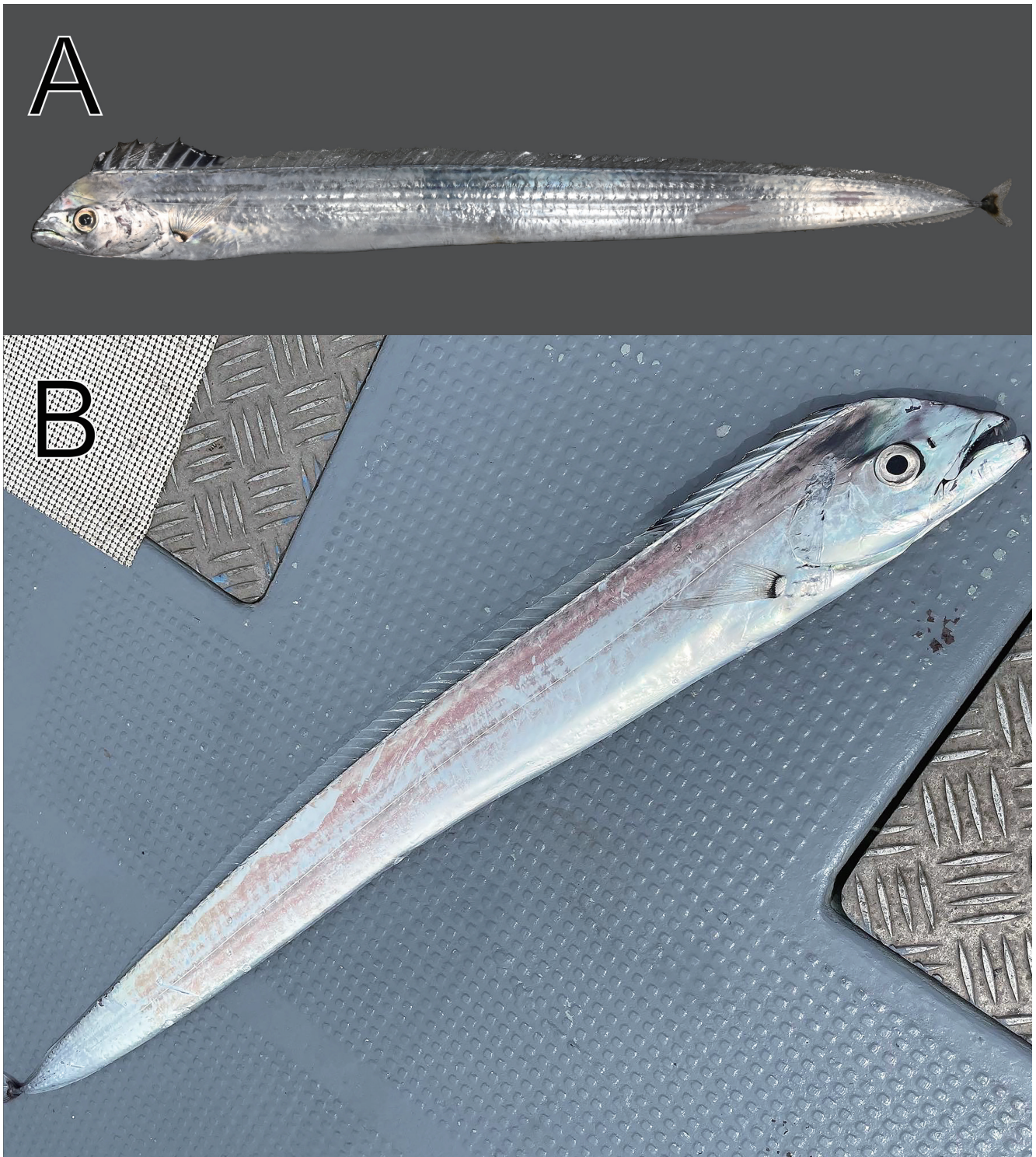


Fig. 1. Fresh specimen of *Evoxymetopon taeniatum* collected from east of Ohshima Island, Nichinan City, Miyazaki Prefecture, southern Japan (KPM-NI 71943, 766.0 mm SL). A: lateral view (photo number: KPM-NR 222719B, photo by Y. Ogata); B: color image of fresh individual just after collection (KPM-NR 222719L, photo by H. Murakami).

り、特に尾柄部の付近では急勾配に細くなり、尾柄高は肛門における体高の10分の1未満になる。尾柄部背・腹縁は体側正中線にほぼ平行。鱗を有さない。側線は明瞭な単線で、鰓蓋後縁上部を始部として後方に伸び、胸鰭後方付近で腹側方向にわずかに傾斜してこれ以降はおおむね直線状となり、体側正中線と平行かつ、やや体側中央より下方の位置で尾鰭基底まで直走する。肛門は体の中央よりやや後方に位置する。頭部は特に著しく側扁し、吻端から鰓蓋の方向に伸長した台形となる。背側の輪郭は吻端から規則

的に湾曲し、背鰭始部で最高位に達する凸形。眼球は比較的大きく、ほぼ完全な円形で、頭部のやや前方に位置し、瞳孔の後端は背鰭始部の直下に位置する。鰓蓋は丸みを帯びた三角形で比較的大きく、頭部の面積の3分の1程度を占めるが、その後端は胸鰭前端までは届かず、下部後縁は喉部の皮膚に食い込む。鰓耙は鋭い棘状で、まばらに位置する。鼻孔は1対で眼球前方に位置し、長方形に近い形状だが、上端部分に前方に向かう切れ込みがみられ、概ね三日月形を呈する。口は端位で比較的大きく、口裂は吻端か

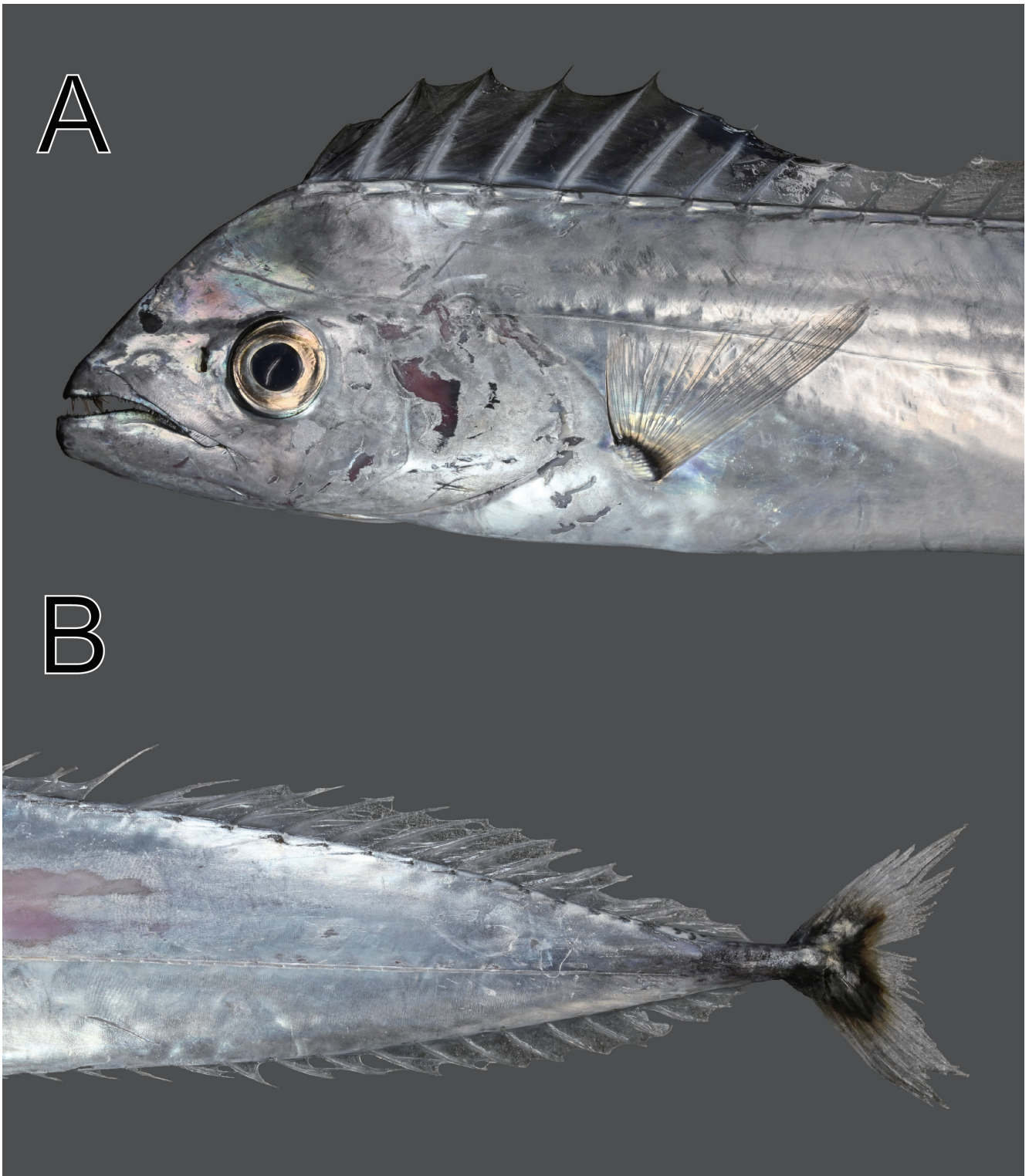


Fig. 2. Fresh specimen of *Evoxymetopon taeniatum* collected from east of Ohshima Island, Nichinan City, Miyazaki Prefecture, southern Japan (KPM-NI 71943). A: closed up view of head (photo number: KPM-NR 222719E); B: closed up view of tail (KPM-NR 222719K). Photos by Y. Ogata.

ら喉部に向かう曲線を描きながら、眼球前端の直下よりもやや後方まで伸長する。上顎は吻端で尖り、中央より前方の部分の頂点として曲がる。下顎は鈍く角張った台形で後方に向かって太く盛り上がり、背面から見た時にほぼ中央部を頂点とするアーチ型を呈する。上顎には前部の正中線上に1本と、その後方に2対、長大で鋭く、後方に向けて緩やかに湾曲した牙状歯がみられる。上顎側部と下顎側部には、牙状歯の7分の1程度の大きさの円錐歯が緻密に並

ぶが、上顎前部の正中線上の1本より前方、上顎両側の2対の直後、および下顎の前方には歯がない。背鰭は瞳孔の後縁直上を始部とし、その背縁は後方に向かって継続的に、下側に向かった緩やかな傾斜を描き、背鰭基底は尾柄中央部まで伸長する。背鰭第2-7棘条が特に剛健で、第5棘条が最長。背鰭第6棘条から第10軟条にかけて背鰭の高さが低くなるが、第11-13軟条にかけて再びわずかに背鰭が高くなる。それぞれの背鰭鱗条の間の背縁輪郭直下に鱗条

間隔とほぼ同じ長さのくぼみがみられる。このくぼみは断続して破線を形成し、背鰭始部から背鰭第 57–58 軟条の間までは明瞭に破線として確認できるが、それより後方では不鮮明になる。胸鰭基底は鰓蓋後縁末端のやや後方の背鰭第 6–7 棘条間直下に位置し、その縁辺は体軸を 0 度とした場合の約 315 度の傾斜を形成する。胸鰭の鰭条は全て上方方向に伸長し、胸鰭鰭条末端と鰭膜が形成する鰭の縁辺は背側に開いた凹型の盃状になる。胸鰭の鰭条は後方に向かうにつれ長くなり、第 10 軟条が最長。腹鰭は胸鰭のやや後方、背鰭第 7 棘条直下の腹側に位置し、著しく小さく、平板状に広がった鱗形の 1 本の棘条からなる。臀鰭第 1 棘条は腹鰭のそれと同様に小さく、平板状に広がった鱗形。臀鰭は、第 1 棘条から背鰭第 58 軟条直下までの範囲は埋没して外から視認することができない。視認できる前方から数えて

最初の臀鰭鰭条である背鰭第 58 軟条直下の鰭条は短剣状の軟条で、非常に小さく不鮮明で鰭膜もみられない。これに続く軟条は、後方に向かうにつれて徐々に伸長し、背鰭第 66 軟条直下以降は発達した鰭膜で軟条が連結する。臀鰭基底は背鰭基底後端の直下よりやや後方まで伸長し、最終軟条は鰭膜によって尾柄部と連結する。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 体は一様に銀白色で、腹側の消化管側面は特に明るい色調で、鏡面のようによく光を反射する。体側で皮膚のはがれた部分は暗くくすんだ黒紫色を呈す。眼窩前縁は黒色で縁取られ、虹彩は金色。瞳孔は黒色に近い紺色。背鰭第 1 棘条は漆黒で、以降の背鰭鰭条は無色透明。背鰭鰭膜は始部から背鰭第 8 棘条の間まではやや薄い黒色だが、背鰭基底付近と、第 2–8 棘条の周囲のごく細い領域は無色透明。背鰭第 9 棘条の直後の鰭膜は、無色透明を呈する右上側を除いて黒色。背鰭第 10 軟条以降の鰭膜はすべて無色透明。胸鰭は、基底付近が黒色で、以降はくすんだ黄褐色から無色透明に色調が移行するが、第 9–12 軟条末端では褐色を呈す。腹鰭、臀鰭の鰭条および臀鰭の鰭膜は無色透明。尾鰭は、基底周辺は完全な黒色で、この黒色域の周囲は黒ずんだ茶色となり、さらにその周辺は無色透明となる。

固定後の色彩 (70% アルコール保存下) — 体は一様にやや鈍い銀色。背鰭第 1 棘条、背鰭鰭膜の始部から第 10 棘条の間、胸鰭の基底周囲と第 9–12 軟条末端、尾鰭基底から中央部は生鮮時と同様で、それらの範囲を除く各鰭の鰭条及び鰭膜は薄い白色を呈する。

分布 本種は西大西洋 (バミューダ諸島、メキシコ湾、バハマ諸島、カリブ海、ブラジル南部)、北西太平洋 (台湾東港、韓国巨済島・済州島、フィリピン中央のパナイ島) の熱帯域から温帯域にかけて知られており (Mori, 1952; 中村, 1984; 中坊・土居内, 2013; Smith-Vaniz and Jelks, 2014; Fricke et al., 2014; Guarte and Campos, 2016; Koeda and Ho, 2017), さらに Gill (1863) は、イギリスのマレー湾での分布も示唆している。日本国内においては、新潟県青海沖 (本間ほか, 1984)、千葉県館山沖、静岡県川奈沖 (崎山ほか, 2011)、和歌山県白浜沖 (池田・中坊, 2015)、愛媛県瀬戸内海域 (清水, 2013)、高知県沖の島 (Koeda and Yamada, 2020)、鹿児島県指宿沖の鹿児島湾湾口部 (畑ほか, 2015; 岩坪・本村, 2017)、および東シナ海大陸棚縁辺・大陸斜面 (Shinohara et al., 2005; 山田ほか, 2007) から知られる。本研究により新たに宮崎県日南沖においても分布が確認された。

備考 本標本は、体が著しく側扁して伸長すること、背鰭が 1 基であること、尾部が発達し、二分した尾鰭を有すること、両眼間隔が隆起線を形成すること、眼は頭部背縁に接近せず、側面中程に位置すること、鰓蓋後方が楕円状に広がること、および腹鰭と臀鰭の第 1 棘条が平板状に

Table 1. Counts and measurements of *Evoxymetopon taeniatum* from Nichinan City, Miyazaki Prefecture, southern Japan.

KPM-NI 71943	
Standard length (SL, mm)	766.0
Total length (mm)	785.0
Counts	
Dorsal-fin elements	80
Dorsal-fin element opposite first anal spine	31st
Pectoral-fin rays	12
Pelvic-fin rays	1
External anal-fin rays	27
Caudal-fin rays	27
Gill rakers (upper + middle + lower)	9+1+17 (spinescent)
Measurements (% SL)	
Total length	102.5
Preal length	47.8
Head length	13.9
Snout length	5.0
Postorbital length	6.3
Preopercle length	2.3
Upper-jaw length	4.9
Body depth at pectoral-fin base	9.3
Body width at pectoral-fin base	2.4
Body depth at anus	8.2
Body width at anus	1.9
Orbit diameter	2.5
Suborbital width	2.0
Interorbital width	2.4
Depth above lateral line at anus	4.7
Depth below lateral line at anus	3.1
First dorsal-fin spine length	2.1
Predorsal-fin length	8.6
Dorsal-fin base length	93.2
Prepectoral-fin length	15.0
Pectoral-fin length	7.6
Pectoral-fin base length	1.5
Prepelvic-fin length	18.9
Pelvic-fin length	1.4
Preal-fin length	49.7
Anal-fin base length	49.2
Caudal-peduncle length	1.8
Caudal-peduncle depth	0.7
Tail length	50.3

広がった鱗形であること、および背鰭条数が 78–88 であることなどの特徴が Gill (1863), Nakamura and Parin (1993), および中坊・土居内 (2013) のユメタチモドキ属の標徴と一致した。さらに、頭部の背縁から眼縁までの最短距離が眼径より長いこと、背鰭始部は眼球中ほどの上部にあること、背鰭第 1 棘条が伸長せず第 2 棘条より短いこと、背鰭条数が 80–82 (調査標本の背鰭条数は 80) であること、背鰭第 1–9 棘条の鰭膜が黒色を呈し、以降は無色透明であることなどが、Gill (1863), Nakamura and Parin (1993), Chakraborty et al. (2006), 山田ほか (2007), および Guarte and Campos (2016) のユメタチモドキ *Evoxymetopon taeniatum* の標徴とよく一致したため、本種と同定された。

本種は同属の *E. moricheni* と、両眼間隔が隆起線を形成すること、背鰭第 1 棘条が伸長しないことなど共通した特徴が多いが、ユメタチモドキは頭部背縁から背鰭始部までの領域は黒色を呈さない (*E. moricheni* は黒色を呈す)、背鰭前長が頭長の 60.5–63.4% である (*E. moricheni* は 68.3%)、下側の鰓耙数が 15–19 である (*E. moricheni* は 13)、背鰭第 1–9 棘条の鰭膜が黒色である (*E. moricheni* は背鰭第 1–5 棘条の鰭膜が黒色)、および臀鰭第 1 棘条が背鰭第 30–32 軟条直下の腹側にある (*E. moricheni* は背鰭第 34 軟条直下の腹側) ことから識別が可能である (Fricke et al., 2014)。また、Nakamura and Parin (1993) では鼻孔が三日月状の三角形をなすことも本種の特徴であると報告しており、本標本でも概ね三日月状を呈していることが確認された。

本種を含むユメタチモドキ属魚類は、宮崎県を含む日向灘の魚類相を網羅した Iwatsuki et al. (2017) や、同県の北部に位置する門川湾周辺の魚類相を網羅した村瀬ほか (2019, 2021) では記録されていない。したがって、本標本が本属魚類と本種の宮崎県沿岸および九州東岸海域からの初記録となる。中坊 (2013) は「東アジアにおける魚類の生物地理学」において、本属魚類を「千葉県銚子から九州南岸の太平洋沿岸、九州北西岸、東シナ海大陸斜面上部、および九州—パラオ海嶺」に分布するグループとして「大陸沿岸温帯大陸棚縁辺から斜面上部・海山魚 (150–500 m)」に区分している。しかし本種は、韓国の沿岸を含む日本海でも分布記録があることから、本種を含むユメタチモドキ属の上記の生物地理学的な区分については今後再検討を要すると考えられる。

今回および過去の記録において本種はルアー釣りによって釣獲されており (池田・中坊, 2015; 本研究)、本種は少なくとも SL が 766.0 mm に達する段階にはすでに遊泳性の動物を捕食している可能性がある。

これまで本種が採集された水深は、120 m (本間ほか, 1984), 約 194–204 m (Shinohara et al., 2005), 約 90 m (崎山ほか, 2011), 140 m (池田・中坊, 2015), 80–90

m (畑ほか, 2015), および 30 m 以深であり (Guarte and Campos, 2016)、本種は大陸棚・大陸斜面縁辺の底層で遊泳生活を送っているとされることから (Gill, 1863; Nakamura and Parin, 1993; 中坊・土居内, 2013)、本種の通常の生息水深はおおよそ 80–200 m の範囲内であると推察される。一方、水深 18 m の浅所で採集された例もあるが (Smith-Vaniz and Jelks, 2014)、これは例外的な記録であると考えられる。以上のことから、水深 150 m から得られた本標本は、本種の通常の生息範囲内で採集されたものと判断される。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、遊漁船 Fishing boat グレアリーの村上宏幸氏と遊漁船 Seaslug の牛衛裕次氏には標本個体の採集・提供に関してご支援を賜った。また、神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏氏と和田英敏氏には標本および写真資料の登録や利用に関してご支援を賜った。また、Ichthy 編集委員の木村祐貴氏には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に対し、この場をお借りして感謝申し上げます。

引用文献

- Chakraborty A., T. Yoshino and Y. Iwatsuki. 2006. A new species of scabbardfish, *Evoxymetopon macrophthalmus* (Scombroidei: Trichiuridae), from Okinawa, Japan. *Ichthyological Research*, 53: 137–142.
- Fricke, R., D. Gorani and B. Appelbaum-Golani. 2014. *Evoxymetopon moricheni*, a new cutlassfish from the northern Red Sea (Teleostei: Trichiuridae). *Ichthyological Research*, 61: 293–297.
- Gill, T. N. 1863. Synopsis of the family of lepituroids, and description of a remarkable new genetic type. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 15: 224–229. [URL](#)
- Guarte, D. M. and W. L. Campos. 2016. First record of *Evoxymetopon taeniatum* (Actinopterygii Perciformes Trichiuridae) from the Philippines. *Acta Ichthyologica et Piscatoria*, 46: 361–366. [URL](#)
- 畑 晴陵・原口百合子・本村浩之. 2015. 鹿児島湾から得られたタチウオ科魚類ユメタチモドキ *Evoxymetopon taeniatum*. *Nature of Kagoshima*, 41: 157–160. [URL](#)
- 本間義晴・水沢六郎・鈴木庄一郎・岡田成弘. 1984. 新潟県魚類目録補訂 (XI). *UO*, 34: 11–36.
- 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 岩坪洗樹・本村浩之 (編). 2017. 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 302 pp. [URL](#)
- Iwatsuki, Y., H. Nagano, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55. [URL](#)
- Koeda, K. and H.-C. Ho. 2017. Records of rare scabbardfish (Perciformes: Trichiuridae) from southern Taiwan. *Platax*, 14: 94–102.
- Koeda, K. and Y. Yamada. 2020. Juvenile record of *Evoxymetopon taeniatum* from Shikoku. *Kuroshio Biosphere*, 17: 35–36. [URL](#)
- Mori, T. 1952. Check list of the fishes of Korea. *Memoirs of the Hyogo University of Agriculture*, 1: 1–228.
- 村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編). 2019. 宮崎県の魚のまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 208 pp.

- 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編). 2021. 新・門川の魚図鑑：ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 358 pp.
- 中坊徹次. 2013. 東アジアにおける魚類の生物地理学, pp. 2289–2338. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・土居内龍. 2013. タチウオ科, pp. 1644–1647, 2221–2224. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中村 泉. 1984. ユメタチモドキ *Evoxymetopon taeniatus* Poey, p. 220, pl. 224. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- Nakamura, I. and N. V. Parin. 1993. FAO species catalogue. Vol. 15. Snake mackerels and cutlassfishes of the world (families Gempylidae and Trichiuridae). An annotated and illustrated catalogue of the snake mackerels, snoeks, escolars, gemfishes, sackfishes, domine, oilfish, cutlassfishes, scabbardfishes, hairtails, and frostfishes known to date. FAO Fisheries Synopsis No. 15: i–vii + 1–136. [URL](#)
- 崎山直夫・瀬能 宏・御宿昭彦・神応義夫・伊藤寿茂. 2011. 相模湾初記録のナルトビエイ・ヒメイトマキエイ (エイ目トビエイ科), および稀種ユメタチモドキ (スズキ目タチウオ科) の同湾からの確実な記録について. 神奈川自然誌資料, 32: 101–108. [URL](#)
- 清水孝昭. 2013. 愛媛県瀬戸内海域より初記録の魚類. 南予生物, 17: 14–35. [URL](#)
- Shinohara, G., T. Sato, Y. Aonuma, H. Horikawa, K. Matsuura, T. Nakabo and K. Sato. 2005. Annotated checklist of deep sea fishes from the waters around the Ryukyu Islands, Japan. National Science Museum Monographs, 29: 385–452.
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類史. 東海大学出版会, 秦野. 1262 pp.